



「心のブレーキ」を育てるために

先週号でご紹介した「メリハリ」「硬軟織り交ぜる」といった保護者の皆様からのお言葉、職員一同、励みしております。子どもたちの「努力」を最大限にほめつつ、時にはしっかりと「叱る」。このバランスこそが教育の要であると再認識いたしました。

昨今のニュースでは、**小学校での暴力行為の急増(前年比約18%増)**



が報じられており、心を痛めている方も多いと思います。だからこそ本校では、命や人権に関わること、そして教師を含む他者への暴力については、あえて厳しく「叱る」姿勢を崩しません。

それは、単に怒ることではなく、子ども自身が将来困らないよう「善悪の判断基準」と「心のブレーキ」をもってもらうためです。「ダメなものはダメ」と教えることは、その子を守ることにもつながります。

子どもたちが社会の中で他者を**尊重し、幸せ**に生きていけるよう、今後も愛情と責任を持って指導にあたっていきます。

広がる「主体性」の輪

朝夕の冷え込みが厳しくなる中、学校の玄関は子どもたちの**主体的な挨拶運動**で温かい空気に包まれています。運動の終わりに、**6年生**から自然と「ありがとう！」という感謝の言葉が溢れました（さらっとこういう言葉が出る6年生は本当にすごいっ！）。



さらに一步進んで、誰に言われるでもなく**玄関前の落ち葉掃除を始める6年生**の姿も見られます。その温かい背中を追うように、**3年生**も迷わずホウキを手に取る。「汚れているからきれいにしよう！」という**気づき**と、その場ですぐ動ける**行動力**。



この**善意の連鎖と主体的な成長**に、私は喜びとエネルギーをもらっています。こうした「心の育ち」もしっかりと見守り、ほめていきたいと思います。

来年度の学校運営に向けて—イエナプラン教育視察—

11月中旬、**今村教諭**が広島県福山市立の**常石とも**に**学園**へ研究視察に赴きました。同校はドイツ発祥の「**イエナプラン教育**」を導入し、異年齢集団での教育活動を特色としています。今回の視察で得た知見を、子どもの主体性育成に繋げるべく、来年度の本校の学校運営に活かしてまいります。



教育相談週間

11/17(月)から28(金)にかけて、**教育相談週間**を実施しました。11月の「心のアンケート」を参考資料とし、各担任(一部副担任)がすべての子どもたちと個別に面談を行っています。これは、ささいな不安のサインも見逃さず、一人ひとりの心に寄り添いながら、個に応じた支援を確実に行うための大変な取り組みです。今後も全職員が連携し、子どもたちの心の健康をサポートしてまいります。

言葉の力で魅せる、本の世界—ビブリオバトル—

図書委員会の新たな**挑戦**として、「**ビブリオバトル(書評合戦)**」が開催されました。11/21日(金)の図書室での予選会には**20名**もの子どもが挑戦し、そこから選ばれた**5名**のファイナリストが、27日(木)、体育館での本選に挑みました。

本選では、それぞれが「**推し本**」の魅力を熱く語りかけました。おすすめポイントや感動を自分の言葉で伝える姿は堂々たるものでした。

発表を聞いて「その本、読んでみたい！」と心を揺さぶられた子も多く、読書への入り口となる素晴らしい大会となりました。誰の本が「**チャンプ本**」に選ばれるのか。来週の結果発表が楽しみです。

<「5名のファイナリスト」と「推し本」>

- | | |
|-------------------------------|--|
| 山口望那さん「サイダーのひみつ」 | |
| 岡本雛子さん「四つ子ぐらし」 | |
| 倉成翔大さん「続ける力 学校では教えてくれない大切なこと」 | |
| 田中蒼真さん「おさるのまいにち」 | |
| 山口莓楓さん「おてつだいねこのクリスマス」 | |